



よなごひと

第20回

水中考古学者
やまふね こうたろう
山船 晃太郎

水中考古学とは、沈没船などの水中に沈んだ遺跡を調査し、歴史を紐解く学問です。山船さんは水中考古学者として米子を拠点に世界中の海に潜ります。「海底で見つかるのは主に商船。船や積み荷を調べると、当時の交易や造船技術について知ることができます。」水中は保存状態が良く、沈没船はまるで昨日沈んだかのよう。山船さんはそんな沈没船に「ミステリアスで魅かれる」のだそうです。

山船さんが水中考古学者をめざしたのは大学生のとき。卒業論文のテーマを決めるため、図書館で手に取った本に水中考古学について書かれていました。「もともとインディ・ジョーンズが好きで考古学に興味があった」という

山船さん。一念発起し、水考古学において一番の権威であるアメリカの大学へ入学しました。「最初は英語も全く話せず、授業を理解するのがとにかく大変でした。でも、勉強が楽しかったから乗り越えられた」と10年間のアメリカ生活を振り返ります。

山船さんの将来の夢は、遺跡のデータを保存し、次の世代へ残すこと。「遺跡は火災や地震、盗掘者に破壊されることもある。しかし、遺跡の3Dデータを作つて保存すれば、情報を後世に残すことができる」と遺跡を守る活動にも意欲をみせます。「でも、まだしばらくは研究に打ちこみたいですね。」古代と未来を行き来する山船さんの冒険はまだまだ続きます。

水中の作業は活動時間が限られるため、効率が求められる
(クロアチアでの沈没船調査の
様子)



遺跡の3Dデータを後世に
(ミクロネシア連邦チューク諸島に沈む旧日本軍の補給船)

米子市の人口と世帯数 令和2年5月末日現在（住民基本台帳による） ※（）内は前月比
人口 147,444人（-1人） 男性 70,211人（-6人） 女性 77,233人（+5人） 世帯数 67,412世帯（+32世帯）